

今週（5月28日から6月1日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

先週のインターバンク市場は、日銀当座預金残高は380兆円台の高水準で推移。無担保コールO/Nの取引レートは、▲0.086～▲0.055%での取引が中心だった。レポ金利が低位な中、月末週となり地銀業態の調達ニーズが一段と弱含む展開となった。加重平均レートは、週半ばまで▲0.070%と低水準で推移した。31日はビットが更に薄くなり、▲0.08%台の出合いが少なかったことから上昇する動きとなった。ターム物に関しては、1・2Wのショートターム物で、▲0.055～▲0.045%の散発的な出合いが見られ、積み期内の資金運用を固める動きが見られた。

固定金利方式による共通担保資金供給オペは1日に2W物・8,000億円がオファーされ、2,382億円（期落ち額1,983億円）と札割れとなった。

●レポ市場

今週のGC O/N物は、月末初物を除けば概ね▲0.170～▲0.120%程度の水準で推移した。28日のT/N(5/29-5/30)は、▲0.150～▲0.140%での出合い。29日のT/N(5/30-5/31)は、▲0.17～▲0.15%での出合い。30日のT/N(5/31-6/1)は、▲0.200%台～▲0.140%での出合い。月末を跨ぐ取引となることからオファーが出難く、一時レートを大きく切り下げた。31日のT/N(6/1-6/4)は、▲0.160～▲0.130%での出合い。1日のT/N(6/4-6/5)は、▲0.140～▲0.110%程度での出合い。

SC個別銘柄では、5年130～135、10年335～350、20年160～164、30年55～58、40年6～11などカレント近辺の銘柄にビッドの出入りが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、GCレポレートが低位で推移するなど、引き続き良好な需給環境の下、全般的に堅調なマーケットとなった。

28日に実施された短国買入オペは、5,000億円でオファーされた。応札額は2兆円弱と多かったものの、平均落札利回較差▲0.001%、按分落札利回較差▲0.002%と小じっかりの結果となった。

1日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.151～▲0.15%での出合いが見られる中、平均落札利回▲0.1479%、按分落札利回▲0.1443%と前回債から小幅ながらレートが低下する結果となった。

●CP市場

今週のCP発行市場は週間償還総額が1兆2,500億円程度に対して、週間発行総額2兆3,000億円程度と大きく発行超となった。配当資金・税手当・賞与対応等により幅広い業態において発行が見られ、一部の卸売・鉄鋼・その他金融業態においては1,000億円程度の超大型発行が行われるなど非常に活況な週となった。月末発行では多くの電力・瓦斯会社が発行するなど、全体では入札案件が約1兆4,000億円程度と過去最高水準の発行量となった。また、約7年ぶりに発行を再開した発行体なども見られた。発行レートについては、引き続き業者の玉確保のニーズは旺盛であるため、発行量が少ない銘柄では強めの買いが散見された。一方で、発行残高が積み上がっている銘柄においては0%近傍の出合いが続いている。

28日にはCP等買入オペが、オファー額2,000億円で実施された。前回と同様にオファー額は少なく、応札可能銘柄の中に発行レートが高く入れ替えニーズの強い銘柄が比較的多かったため、レート上昇が予想されたが、結果は平均落札レート0.002%・按分レート▲0.004%と、前回（平均0.000%・按分▲0.007%）比で僅かな上昇にとどまった。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート(翌日 物・T+1スタート・%）	日銀当座預金残高 （億円）
5/28（月）	22,481.09	0.035	109.40	△ 0.069	△ 0.152	3,838,500
5/29（火）	22,358.43	0.030	109.00	△ 0.070	△ 0.156	3,841,800
5/30（水）	22,018.52	0.025	108.50	△ 0.070	△ 0.240	3,836,100
5/31（木）	22,201.82	0.030	108.66	△ 0.065	△ 0.145	3,842,400
6/1（金）	22,171.35	0.040	109.05	△ 0.072	△ 0.145	3,809,700

来週（6月4日から6月8日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定		海外主要経済指標
6/4 (月)	財政資金対民間収支前月実績/当月見込み(財務省 15:00) 5月のマネタリーベース(日銀 8:50)			4月の米製造業新規受注・出荷・在庫
6/5 (火)	6月の日銀当座預金増減要因見込み(日銀 8:50) 4月の全世帯家計調査(総務省 8:30)	10Y 22,000億円 6/6発行		5月のISM 非製造業景況指数
6/6 (水)	4月の毎月勤労統計調査速報(厚生労働省 9:00)	交付税借入 10,500億円 6/14借入		4月の米貿易収支
6/7 (木)	5月のマネタリーベースと日本銀行の取引(日銀 8:50) 4月の景気動向指数速報(内閣府 14:00)	TB6M 23,000億円 6/11発行	流動性供給 5,000億円 6/8発行	4月の米消費者信用残高 1-3月期のユーロ圏GDP確報値
6/8 (金)	1-3月期のGDP 2次速報(内閣府 8:50) 4月の国際収支(財務省所管・日銀作成 8:50) 5月の景気ウォッチャー調査(内閣府)	TB3M 44,000億円 6/11発行	エネルギー 対策借入 7,500億円 6/20借入	4月の米卸売売上高

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
6/4 (月)	1,000	▲ 53,200	▲ 52,200	全店共通 CP買入 国債買入 国債補完 社債買入 ETF買入 成長基盤	▲ 2,000 ▲ 100 300 ▲ 200 ▲ 3,700	2,400 5,100 100 5,200	7,100	▲ 45,100	普通交付税 年金保険料揚げ 法人税・消費税揚げ TB3M発行△44000償還43100 交付税借入△10500期日10500
6/5 (火)	1,000	1,000	2,000	成長基盤	▲ 300		▲ 300	1,700	
6/6 (水)	1,000	▲ 20,000	▲ 19,000				0	▲ 19,000	10Y発行△22000
6/7 (木)	0	2,000	2,000				0	2,000	
6/8 (金)	0	▲ 4,000	▲ 4,000	CP買入		2,500	2,500	▲ 1,500	流動性供給△5000 預借借入期日900
週間合計	3,000	▲ 74,200	▲ 71,200	—	▲ 6,000	15,300	9,300	▲ 61,900	

6/4は日銀予想、6/5以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、4日の普通交付税を税・保険料揚げが上回り、大幅な資金不足が見込まれる。6日も10Y発行で大幅な資金不足が見込まれる。今月はT+1化後の大量償還月であるため、国債の発行日がT+1となる。

レポ市場は、参加者のスタンスに大きな変化がなければ、引き続きレートは低位横ばいで推移すると見られる。

短国市場は、7日に6M物、8日に3M物の入札が実施予定となっているが、レート水準が低下している事もあり、堅調な地合いがどこまで継続するか注目される。

CP市場は引き続き賞与手当の発行が予想されるが、発行レートに大きな変化は無いと見込まれる。また、5日にCP等買入オペが2,500億円で実施予定となっており、前回比で金額は500億円増えるものの、レートに大きな変化は無いと見込まれる。

主要なイベントとしては、国内では8日に1-3月期GDP2次速報の公表が予定されている。

- ◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- ◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
- ◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くことがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。